

南城市地域公共交通網形成計画の 中間評価について

令和5年11月

南 城 市

1 中間評価のための調査について

1.1 調査実施概要

- 南城市地域公共交通網形成計画は、2017年度（平成29年度）から2026年度（令和8年度）の10年間を計画期間としていますが、2020年度（令和2年度）と今年2023年度（令和5年度）が中間評価年となっています。
- 網形成計画の中間評価を行うため、市民アンケートと観光客アンケートを実施し、公共交通の評価等を把握しました。
- なお、調査は中間評価であることから、アンケートは計画策定時に比べ、簡便的に実施しています。

表 1.市民アンケートの実施概要

項目	内容
調査対象	15歳以上の南城市民
調査方法	WEBアンケートによる調査実施 アンケートのURL（QRコード）は、広報なんじょう、市役所窓口待合スペースに掲載、掲示
把握項目	<ul style="list-style-type: none">●属性（年代、居住地、運転免許証の有無等）●公共交通の利用状況（交通手段別の利用頻度、主な利用目的等）●公共交通に対する評価（路線バスのルート、路線のわかりやすさ、路線バスの運行頻度、路線バスの運賃、バス停の整備状況）※中間評価の評価項目●公共交通に対する要望等（自由意見）
サンプル数	543票

表 2.観光客アンケートの実施概要

項目	内容
調査対象	南城市を訪れる市外からの観光客（県民含む）
調査箇所	おきなわワールド及びがんじゅう駅南城・南城市地域物産館の2箇所
調査方法	調査箇所を訪れた観光客に対し、調査員が協力依頼を行い、協力を得られた方にその場でアンケート調査票に記入してもらう方法で実施する。
把握項目	<ul style="list-style-type: none">●属性（年代、居住地、運転免許証の有無、グループ類型、沖縄県来訪回数、南城市来訪回数、沖縄県滞在日数、南城市滞在日数、沖縄旅行の形態）●南城市への来訪手段 ※中間評価の評価項目●南城市内での立ち寄り先●南城市までのアクセスに関する要望●南城市内での移動に関する要望
サンプル数	427票

1.2 回答者の属性

- 男女比をみると、市民アンケートは 33 : 65 で女性が多く、観光客アンケートは 55:45 で男性が多くなっています。
- 年代は、市民アンケートは 30 代、40 代が、観光客アンケートは、20 代の回答が多くなっています。
- 市民アンケートの居住地は、佐敷、玉城、大里がそれぞれ約 3 割、知念が約 1 割の割合になっています。
- 観光客アンケート回答者の県内、県外の割合は 31 : 69 で県外が多くなっています。
- 運転免許証の保有状況は、両アンケートとも保有率が 94~96%と高くなっています。

表 3.市民アンケートの回答者の属性

項目	内容						
性別	男性	女性	その他・答えたくない				
	33%	65%	2%				
年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~
	4%	8%	27%	31%	18%	9%	3%
居住地	佐敷	知念	玉城	大里	つきしろ		
	29%	9%	28%	30%	4%		
運転免許証の保有	持っている		持っていたが返納した		持っていない		
	94%		0%		6%		

表 4.観光客アンケートの回答者の属性

項目	内容						
性別	男性	女性					
	55%	45%					
年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~
	2%	28%	20%	18%	17%	10%	4%
居住地	県内	県外					
	31%	69%					
運転免許証の保有	持っている		持っていたが返納した		持っていない		
	96%		1%		3%		

1.3 調査結果の概要

(1)公共交通の利用状況

- 市民アンケートより、公共交通の利用状況をみてみると、「路線バス」、「Nバス」、「タクシー」は年に1日以上利用している人の割合は、それぞれ37%、36%、34%と約3分の1を占めていますが、「おでかけなんじい」は5%と割合が低くなっています。
- 「路線バス」、「Nバス」は週に1日以上利用している方が9%、月に1日以上利用している方が15%から17%を占めています。一方、「タクシー」は高頻度に利用する方は少なく、週に1日以上利用している方は1%、月に1日以上利用する方は12%となっています。
- 「おでかけなんじい」は、92%の方が利用しておらず、頻度別では「年に1~2日程度」が4%と最も多くなっています。

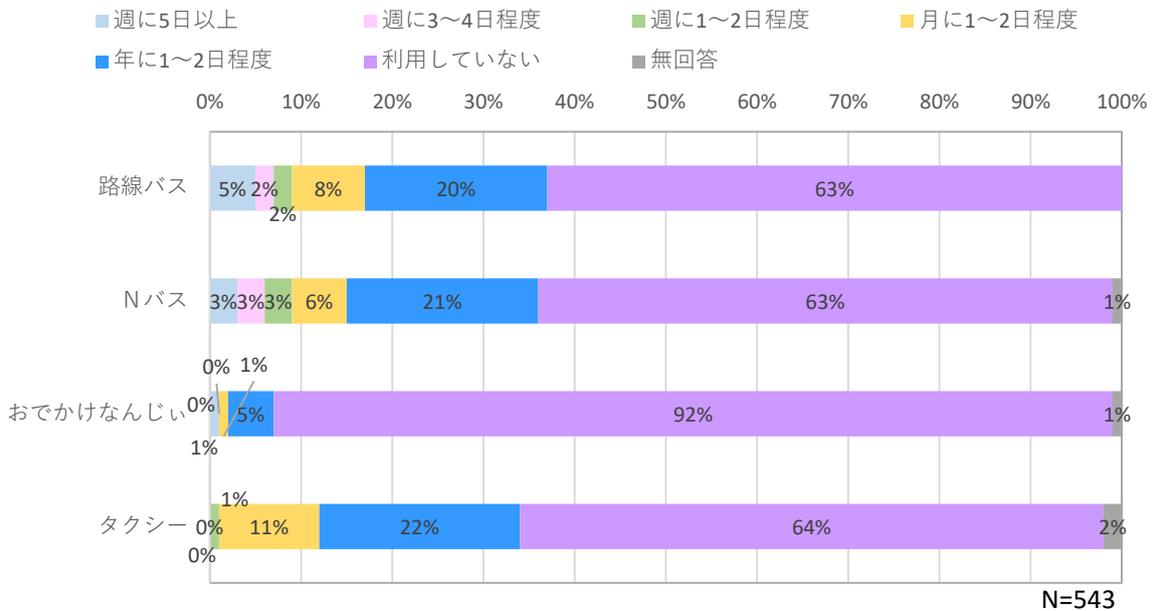


図-1.南市内の公共交通の利用頻度

出典:市民アンケート

- 観光客の南城市までの交通手段は「レンタカー」が57%、「マイカー」が26%とあわせて83%がクルマ利用となっています。
- 県内からは80%が「マイカー」、8%が「友人・知人のクルマで9割近くがクルマ利用となっています。
- 「路線バス」は県内客の4%、県外客の5%が南城市までのアクセスに利用しています。

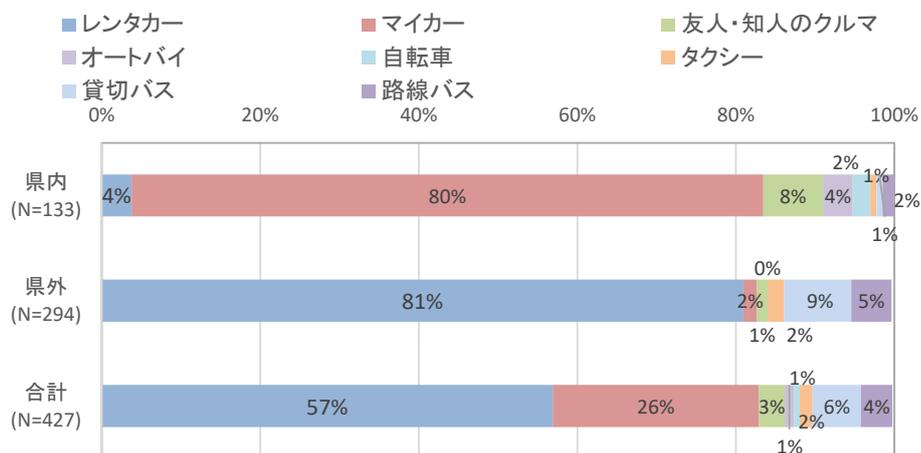


図-1.観光客の南城市までの移動手段

出典：観光客アンケート

- 南城市内での観光客の公共交通の利用状況をみると、県内客、県外客ともに約9割が公共交通を利用していませんが、県内客の9%、県外客の5%は「路線バス」を、県内客の7%は「Nバス」を利用しています。

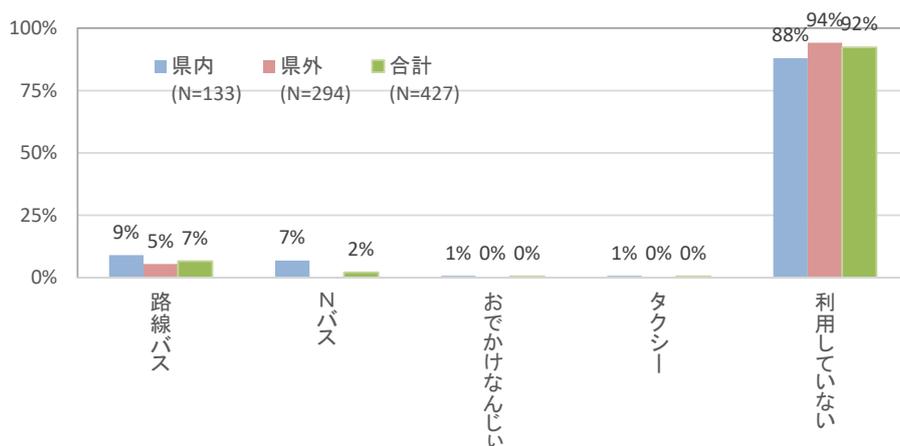


図-3.観光客の南城市内での公共交通の利用状況(複数回答)

出典：観光客アンケート

- 観光客の交通に関する情報収集状況をみると、県外客は「カーナビまかせ」が63%、「運転手まかせ」が17%と80%が特に調べていない状況となっています。
- 県内客は「その他」が27%と多く、アクセス方法を知っているため特に調べていない方が多いと思われます。

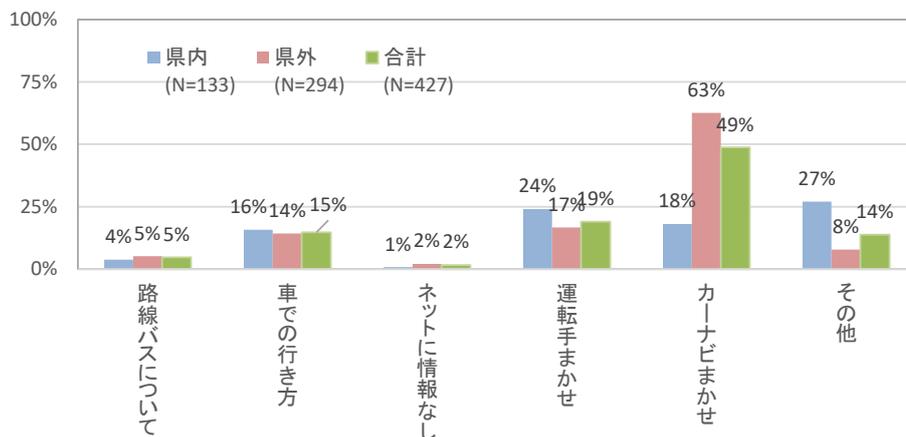


図-4.観光客の南城市までの交通に関する情報収集の状況(複数回答)

出典:観光客アンケート

- 観光客の交通手段の選択理由をみると、県外客は「観光地を回るのに都合がよい」が63%と最も多く、次いで、「沖縄をドライブしてみたい」が32%、「早く目的地に着ける」22%の順に多くなっています。
- 県内客は、「沖縄をドライブしてみたい」32%、「観光地を回るのに都合がよい」が29%とこの2つが理由として多くあげられています。

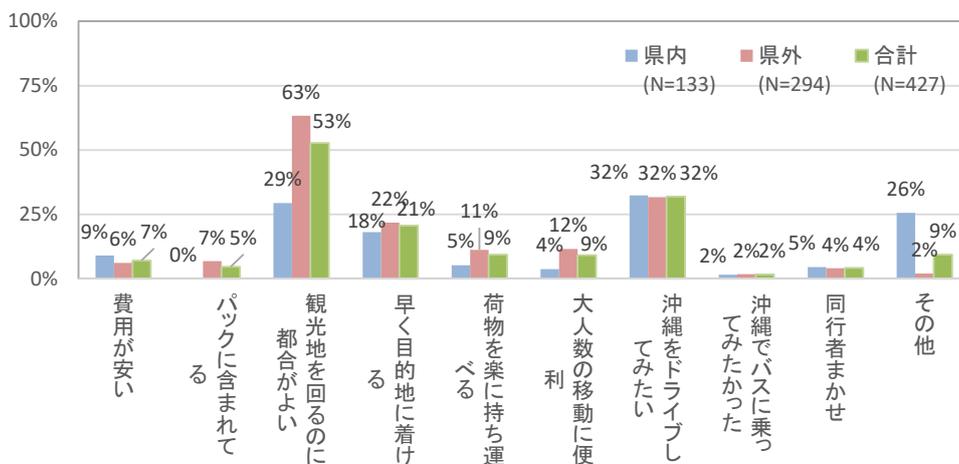


図-5.観光客の交通手段の選択理由(複数回答)

出典:観光客アンケート

(2)公共交通の評価

- 全回答者の公共交通の評価は、全体的に不満、やや不満の割合が高く、「路線バスの便数」は48%が不満又はやや不満と回答しています。
- 一方、「Nバスの運賃」に対する評価は高く、41%が満足又は満足と回答しています。
- なお、利用割合が低い「おでかけなんじい」に関する設問は、「わからない」の割合が約6割を占めています。

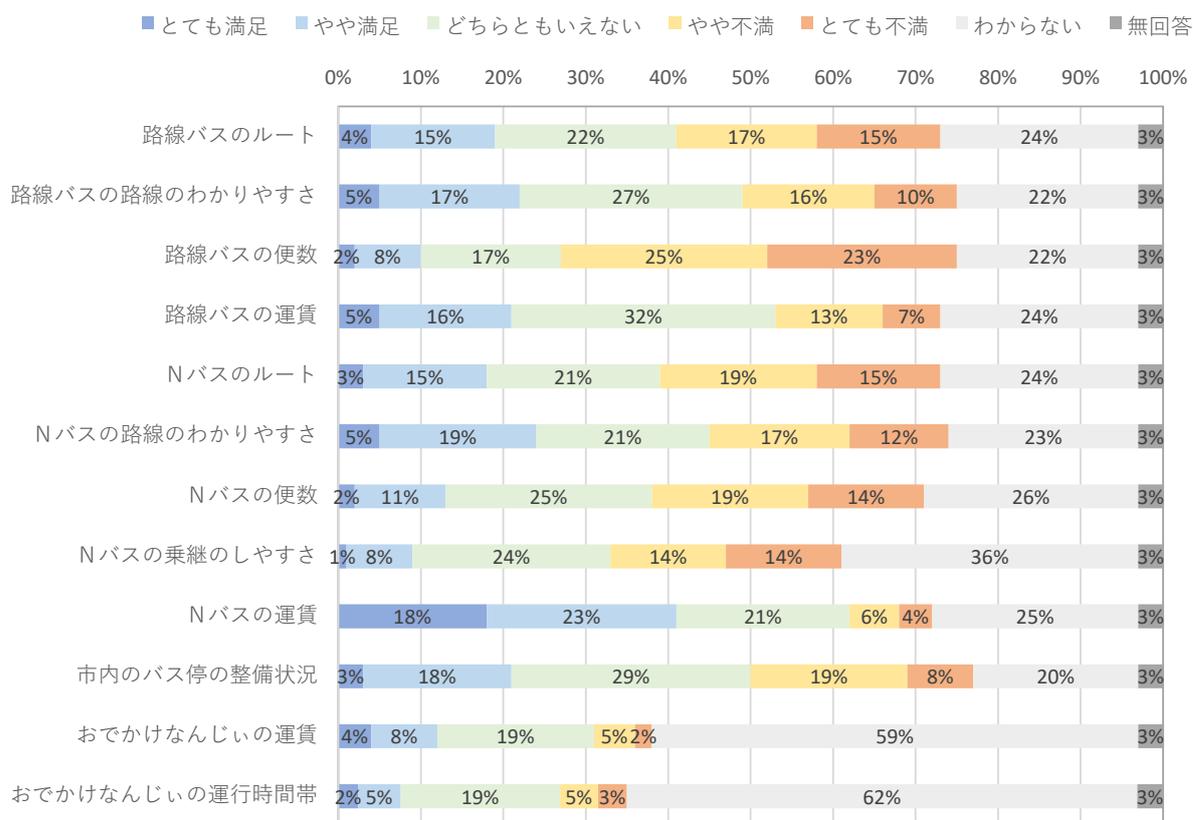


図-6.公共交通に対する評価(全体)

出典:市民アンケート

- 設問に関する利用者の回答をみると、全体同様に「Nバス」の運賃に対する評価が高く、「満足」が28%、「やや満足」が36%と64%が満足と回答、「不満」は3%、「やや不満」は8%と11%に過ぎず、利用者の多くが満足しています。
- その他では「Nバスの路線のわかりやすさ」、「おでかけなんじいの運賃」、「おでかけなんじいの運行時間帯」については40%が満足又はやや満足と回答しています。
- 一方、「路線バスの便数」は63%、「Nバスの便数」は45%、「路線バスのルート」は37%、「Nバスのルート」は40%と不満又はやや不満の回答が多く、路線バス及びNバスの便数、ルートに関する評価が低くなっています。

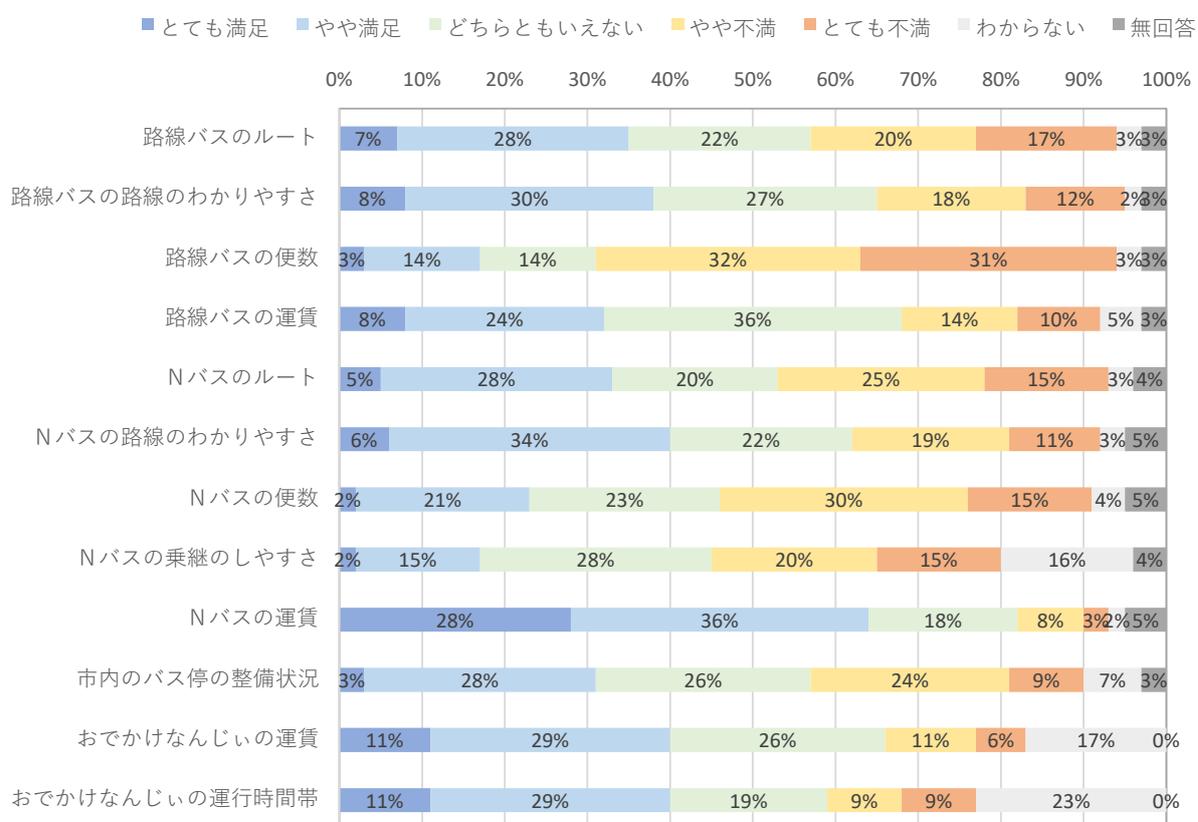


図-7.公共交通に対する評価(利用者のみ)

出典:市民アンケート

- 「満足」を5点、「やや満足」を4点・・・「不満」を1点として評価を点数化すると、すべての項目で利用者の満足度が全体よりも高くなっています。
- 全体、利用者ともに「Nバス」の運賃に対する満足度が最も高く、満足度はそれぞれ3.6点、3.8点となっています。
- その他では「おでかけなんじいの運賃」、「おでかけなんじいの運行時間帯」に対する利用者の満足度は3.3点とやや高くなっています。
- 一方、「路線バスの便数」については、全体、利用者ともに2.2点と最も満足度が低くなっています。

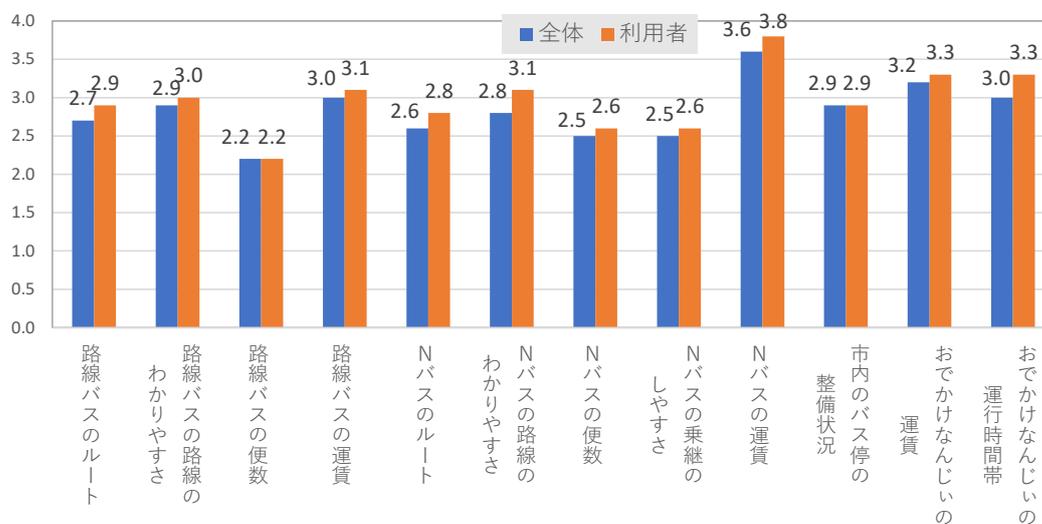


図-8.公共交通に対する満足度

出典:市民アンケート

- 網計画の評価に関する項目の満足度は、下表に示すとおりであり、「路線バスの運賃」のみ令和8年度の目標値3.0点に達していますが、その他の項目は未達成となっています。

表 5.網計画の評価に関する満足度の結果

項目	現況値 (H28)	目標値 (R8)	中間評価 (R5)	目標達成状況
路線バスルート	2.9点	4.0点	2.7点	×:未達成
路線バスの運行頻度	2.0点	3.0点	2.2点	×:未達成
路線バスの運賃	2.4点	3.0点	3.0点	○:達成
路線のわかりやすさ				
路線バス	2.8点	4.0点	2.9点	×:未達成
Nバス	—	4.0点	2.8点	×:未達成
バス停の整備状況	2.8点	3.0点	2.9点	×:未達成

出典:市民アンケート

2 網計画の中間評価

2.1 施策の実施状況

●以下に示すように網計画に示された施策はおおむね実施できています。

表 6.網形成計画の施策の実施状況

施策	目標	中間評価
施策 1-1 中核地でのバスターミナルの整備	暫定実施	○：暫定実施 2019年度に南城市役所バス停が整備
施策 1-2 市外への幹線バスの運行及び既存系統の見直し	暫定実施	○：実施 2019年10月に南城市役所バス停を拠点に再編実施
施策 2-1 市内の支線バスの運行	暫定実施	○：実施 2019年10月に支線バスを導入
施策 2-2 新たなバス路線網等に対応した乗り継ぎ施設の整備検討	検討	○：実施 2019年の再編時に市役所1階にバス出張所や乗り継ぎのための待合施設等を整備
施策 2-3 安座真船待合所への路線バスの乗り入れ	実施	○：実施 2019年10月の再編でNバスが乗り入れ
施策 2-4 幹線バスと支線バスのダイヤの連携	実施	○：実施 2019年10月の再編で通勤・通学時間に合わせたダイヤを設定
施策 3-1 おでかけなんじいの継続運行	実施	○：実施 2019年度の再編で位置づけの見直しを行いながら継続運行
施策 3-2 久高航路の継続運行	実施	○：実施 2019年度の再編でNバスとの接続性を高めて、継続運行
施策 3-3 公共駐車場でのパーク&バスライドの実施	検討	○：実施 公共駐車場を利用してP&Rを実施可能。 2021年3月より公共駐車場は有料
施策 3-4 送迎用乗降場の整備検討	検討	○：代替あり 現状では市役所正面駐車場が送迎に利用されている。
施策 3-5 駐輪場の整備検討	検討	○：実施 市役所敷地内に整備
施策 3-6 高齢者向け定期券の導入	検討	○：実施 Nバスの回数券を格安で販売することで対応（一般の定期券を上回る割引）
施策 3-7 学生向け定期券の導入	検討	○：実施 Nバスの回数券を格安で販売することで対応（一般の定期券を上回る割引）

施策	目標	中間評価
施策 3-8 乗り継ぎ割引の導入検討	検討	○：実施 2019 年度の再編で、乗り継ぎ割引も考慮した N バスの均一料金を導入
施策 3-9 市内上限運賃導入検討	検討	○：検討中 N バスに均一運賃を導入。幹線バスでの上限運賃は実現できていない
施策 4-1 公共交通運行情報モニターの導入検討	検討	○：実施 2019 年度の再編時に南城市役所、がんじゅう駅等にサイネージを設置
施策 4-2 多言語表示による公共交通情報の提供	検討	○：実施 N バス車内の行先表示ディスプレイで対応、N バスマップ英語版配布（2023 年度版）
施策 4-3 公共交通アテンダントの導入検討	検討	○：実施 2019 年度の再編時に導入
施策 4-4 ハイグレードバス停の整備検討	検討	○：実施 2019 年度に上屋、ベンチ、掲示板を備えた市役所バス停を整備
施策 4-5 快適な待合施設の整備検討	検討	○：実施 2019 年度の再編時に、市役所を待合所として開放
施策 5-1 観光客への公共交通に関する情報提供の実施	実施	○：実施 案内所やサイネージ、ホームページ等での情報提供、GTFS 形式での N バスの情報発信
施策 5-2 レンタカーステーションの整備検討	検討	○：検討中 バスターミナルに併設する施設の候補として検討、市役所にはカーシェアを導入
施策 5-3 レンタサイクルの導入検討	検討	○：実施 観光協会が「がんじゅう駅」で実施
施策 5-4 遊覧バスの導入検討	検討	○：実施 N バスを活用した観光ツアーを実施
施策 5-5 市内 1 日乗車券の導入検討	検討	○：実施 1 日乗車券の販売を 2020 年 6 月 1 日より実施
施策 5-6 モビリティ・マネジメントの実施	実施	○：実施 公共交通便りの継続発行、N バスの乗り方教室、N バスの運賃無料期間の設定等を実施
施策 5-7 イベント等の実施検討	検討	○：実施 アテンダントによるイベントを実施
施策 5-8 車両等の魅力向上策の実施検討	検討	○：実施 バリアフリー対応で、なんじいをモチーフにした N バスの新車導入、おでかけなんじいの車両の更新、アテンダントによる車内装飾の実施

2.2 目標値の達成状況

- 目標値については、利用者の評価に関する評価項目が未達成となっておりますが、実施に関する評価項目は、おおむね達成できています。

表 7. 網形成計画の目標達成状況

基本方針	指標	現況値	目標値	達成状況
①中核地を中心に市外へスムーズに移動できる公共交通網を形成する。	バスターミナルの数	3箇所	1箇所 (中核地に集約)	△ 市役所バス停に集約
	中核地から市外への運行系統数	0系統	3系統 (那覇、与那原、八重瀬方面を想定)	○ 8系統運行
	路線バスのルート満足度	2.9点/5.0点	4.0点/5.0点 (再編により、やや満足(4点)まで向上)	× 2.5点→2.7点 (R2) (R5)
②中核地等での乗り継ぎによりスムーズに市内を移動できる公共交通網を形成する。	中核地とまちの拠点を結ぶ運行系統数	0系統	4系統 (佐敷、知念、玉城、大里方面と連絡)	○ A1~Gの13系統のNバスを運行
	路線バスの運行頻度の満足度	2.0点/5.0点	3.0点/5.0点 (10年間で5点満点の中間値)	× 2.1点→2.2点 (R2) (R5)
③誰でも気軽に利用できる身近な移動手段を確保する。	デマンドバス登録者数	4,000人	8,800人 (10年間で4,800人増加、創生戦略に準拠)	目標として削除
	パーク＆バスライド用駐車場の整備	0箇所	1箇所 (中核地を想定)	○ 公共駐車場を活用して実施
	路線バスの運賃の満足度	2.4点/5.0点	3.0点/5.0点 (10年間で5点満点の中間値)	○ 2.6点→3.0点 (R2) (R5)
	公共交通の分担率	1.6%	3.2% (10年間で倍増)	2026年に評価
④再編による効果が高めるため、公共交通の利用環境を充実する	路線のわかりやすさの満足度	2.8点/5.0点	4.0点/5.0点 (再編により、やや満足(4点)まで向上)	× 幹線バス:2.8点→2.9点 (R2) (R5) Nバス:2.6点→2.8点 (R2) (R5)
	バス停の整備状況の満足度	2.8点/5.0点	3.0点/5.0点 (10年間で5点満点の中間値)	× 2.8点→2.9点 (R2) (R5)

基本方針	指標	現況値	目標値	達成状況
⑤南城市の活性化に向け、人の流れを活発にする	観光客の路線バスの分担率	2.0%	4.0% (5年間で倍増)	○ 2.4%→4.0% (R2) (R5)
	需要喚起に向けたイベント実施	0件	1件 (10年間で毎年実施するイベントづくり)	2026年に評価